

米づくり情報 第9号

令和4年8月26日

平坦部(佐賀県農業試験研究センター)

本年産水稻の生育状況(8月26日)

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
6月17日	夢しずく	本年	出穂期:8月15日				[気象] 8月19~8月25日まで ◆平均気温…平年より1.2℃高い ◆日照時間…短い(平年比76%) ◆降水量…少ない(平年比73%) [生育] ◆草丈 「さがびより」「ヒヨクモチ」で高い。 ◆茎数 「さがびより」で少なく、「ヒヨクモチ」では多い。 ◆葉齢 「ヒノヒカリ」の主稈葉数は平年並みであった(主稈葉数: 本年14.4、平年14.3)。 「さがびより」「ヒヨクモチ」の葉齢は平年並み。 ◆葉色 「さがびより」で平年並み。「ヒヨクモチ」ではやや濃い。 ◆葉耳間長 「さがびより」で+10.9cm、「ヒヨクモチ」で+2.8cmとなっている。
		平年	出穂期:8月17日				
		平年比(差)	2日早い				
6月20日	ヒノヒカリ	本年	出穂期:8月25日				
		平年	出穂期:8月27日				
		平年比(差)	2日早い				
6月20日	さがびより	本年	101.3	393	(止葉葉位) 15.2	36.0	
		平年	91.9	429	15.0	35.2	
		平年比(差)	110	92	+0.2	+0.8	
6月20日	ヒヨクモチ	本年	86.3	594	15.5	39.0	
		平年	78.1	508	15.6	36.7	
		平年比(差)	110	117	-0.1	+2.3	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水管理は、穂肥施用時の湛水管理を除き、引き続き間断灌水を行う。 ○ トビイロウンカ、紋枯れ病、斑点米カメムシ類の発生が多くなると予想されている。圃場での発生状況を確認し、的確な防除を行う。 ○ 「ヒヨクモチ」で穂肥施用が済んでいない所は早急に施用する。 						

注1)「夢しずく」、「ヒノヒカリ」は、6月17日移植の稚苗(播種期5/23、播種量 湿籾 180g/箱)
「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月20日移植の稚苗(播種期5/26 播種量 湿籾 180g/箱)

2)栽植密度: 「夢しずく」は、条間30cm×株間17cm, 19.6株/m²(65株/坪)
「さがびより」は、条間30cm×株間20cm, 16.7株/m²(55株/坪)
「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間30cm×株間15cm, 22.2株/m²(73株/坪)

3)栽培管理: 施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。

4)概況欄の【草丈】、【茎数】の平年値との比較については、以下のように定義している。
低い(少ない): 94以下、やや低い(やや少ない): 95~98、平年並み: 99~101、
やや高い(やや多い): 102~105、高い(多い): 106以上。

5)平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差(σ)を算出し、±1σの外側にある年次を除く年次を対象にした、各項目の単純平均値。

【窒素の時期別施用量(N kg/10a)】

品 種	基 肥	中 追	穂肥 I	穂肥 II	実 肥
夢しずく	3.0	0.0	2.0(7/29)	—	—
ヒノヒカリ	4.0	2.0(7/8)	3.0(8/5)	—	—
さがびより	5.0	0.0	2.0(8/12)	—	—
ヒヨクモチ	4.0	3.0(7/13)	4.0(8/18)	1.5(8/25)	1.5

※括弧内の日付は農試作況圃場における施用日

【農試作況圃場における幼穂形成始期と出穂期】

品 種	幼穂形成期(1mm)		出穂期	
	本年(平年差)	平年	本年(平年差)	平年
夢しずく	7/27(-1)	7/28	8/15(-2)	8/17
ヒノヒカリ	8/5(±0)	8/5	8/25(-2)	8/27
さがびより	8/7(-2)	8/9	未	9/1
ヒヨクモチ	8/14(±0)	8/14	未	9/6

令和4年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(佐賀)

農業試験研究センター
作物栽培研究担当

